

目 次

まえがき	i
第1章 全員参加の安全管理	1
1.1 「命の値段」	2
1.2 人間尊重と利益確保	6
1.3 全員参加は教育訓練である	7
1.4 全員参加の安全管理	9
1.5 みんなで安全な産業社会を	12
第2章 安全管理と第1線監督者	16
2.1 安全職場は能率職場である	17
(1) ケガは浪費であり金がかかる	17
(2) ケガを防止すれば職場の能率も上がる	18
2.2 職場の人たちを安全活動に協力させるには	21
(1) 参画させる	21
(2) 刺激を与える	27
(3) 関心を呼び起こす	28
2.3 管理のサークルを回せ	32
2.4 まず小さなケガを防げ	34
2.5 新人の扱い方——「こわさ」を知らない	37

2.6	ケガの記録の取り方	39
2.7	職・班長の資格	41
2.8	職場安全管理の計画	43
	安全課から職・組長へ	有元 富治 45
第3章 安全管理と課長		50
3.1	課長の任務	51
(1)	動的な表現・静的な表現	51
(2)	課長の任務のことで叱られる	52
(3)	自動的・他動的	53
(4)	昨日の仕事・今日の仕事・明日の仕事	55
(5)	責任・権限	56
(6)	職場の良し悪し	56
3.2	「カキクケコ」管理	58
(1)	「カキクケコ」管理とは	58
(2)	3つのケガをなくそう	59
(3)	現場は生きている	60
(4)	事例に学ぶ	61
3.3	職・班長の質を高める方法	66
(1)	安全職場への近道	66
(2)	職・班長の弱さ	66
(3)	職・班長の質を高めるいろいろな方法	67
(4)	課長が日常職・班長と接触して訓練するやり方	68
(5)	職・班長を各種会合の司会者にするやり方	69
(6)	定例職長研究会	74

第4章	ある課長の安全活動3カ年	83
4.1	右眼失明のケガから	84
4.2	安全活動の2つの焦点	86
	(1) 人評して新聞記者という	87
	(2) 工場の回り方	87
4.3	第1年目——バケツの中のカニ	88
	(1) 整理整頓	90
	(2) 整理整頓のチェックリスト	91
	(3) ゴミ捨て場などの標準化	94
	(4) 職場安全懇談会	94
	(5) ケガの多い職場の分析	100
	(6) 吊具は大丈夫か	101
	(7) バケツの中のカニ	102
	(8) 頂門の一針	105
4.4	第2年目——私はこれを待っていた	106
	(1) 職場安全委員制度	107
	(2) 職場安全準則	107
	(3) 傷害調査表を職長に作らせる	109
	(4) 安全眼鏡の話	110
	(5) 設備予算を食う	112
	(6) 安全旗をかつぐ	113
	(7) 涙の報告——私はこれを待っていた	113
4.5	第3年目——ケガを隠すな	114
	(1) 安全活動は職長を中心に各職場ごとにやれ	114
	(2) 職場安全競争	116

(3) ケガを隠さない呼びかけ	116
(4) 工場長の話・安全スタッフの話	118
4.6 課の安全管理の計画	118
(1) 第1線監督者にケガに対する強い責任感を持たせる工夫	118
(2) 一般の人の関心を高めるための工夫	121
4.7 火災の予防	122
第5章 安全スタッフの任務	124
5.1 安全スタッフとしての活動は十分だったか	125
(1) 安全スタッフに優秀な人を	125
(2) 安全スタッフ活動の焦点	127
(3) 安全スタッフの人数	129
(4) トップと安全スタッフの距離	131
(5) プロの安全スタッフ	131
5.2 全員を安全活動に動員するには	132
(1) 統計を道具として	132
(2) 7・5・3の法則	135
(3) 機関車・シェルパ・開拓者	136
(4) 安全スタッフのあり方	137
5.3 中央安全衛生委員会	142
5.4 安全パトロール	147
(1) 臨時工の安全教育のチェック	147
(2) ワークサンプリング法による安全パトロール	149
(3) スナップショットによる安全パトロール	156
(4) 統計から情報を読み取る	158
(5) 新設機械の安全点検	161
5.5 モンシエル会と安全スタッフ	165

第6章 安全管理はトップから	171
6.1 安全では日本はまだ後進国	171
6.2 人命と利益を守ることは一体である	173
(1) トップの安全活動	173
(2) 責任感を行動で示す	175
6.3 安全管理におけるトップの任務	176
(1) トップは安全方針をたてる	177
(2) 安全管理を組織化する	180
(3) 安全教育を徹底する	182
(4) トップとラインとスタッフ	183
(5) 安全評価のチェック	185